

議員全体研修報告書



(防災センター2階研修室にて)

平成 30 年 1 月

議員全体研修報告書

目次

I 研修報告概要	1
1 研修日程	1
2 研修事項	1
3 講師	1
4 研修の目的	1
5 地方創生の時代と地方議会改革について	1
6 研修参加者	2
7 研修の様子	2
II 研修内容	3
1 地方創生の時代と地方議会改革	3
(1) 政務活動費問題	3
▶ 2012年の法改正の趣旨	3
(2) 長野県飯綱町の議会改革	3
▶ 背景	3
▶ 町民政策サポーター制度	3
(3) 二元代表制	4
▶ 二元代表制の趣旨	4
(4) 地方創生	4
▶ 人口減の影響	4
▶ 小さな政府について	4
(5) 地域の宝となりうる地方議員	5
(6) 地方創生時代の議会	5
2 事前質問	5
▶ 通年議会のメリット、デメリットについて	5
▶ 夜間・休日議会の開催について	5
3 質疑応答	5
▶ 全体研修の様子	6
III 感想等 ～ 研修を終えて ～	7

I 研修報告概要

1 研修日程

平成30年1月29日(月)午後2時
千代田庁舎 防災センター2階研修室



(開会にあたり挨拶をする中根議長)

2 研修事項

演題：地方創生の時代と地方議会改革

3 講師

茨城大学 人文学部 現代社会学科

教授 ^{まわたり} 馬渡 ^{つよし} 剛 先生

「日本の地方政治」、「東日本大震災からの復興と政治」などをテーマに研究されている。



(講師の馬渡教授)

4 研修の目的



(研修の様子)

本市は、急速な少子化等による人口減少問題や厳しい財政事情等の課題に立ち向かわなければならない状況下にあります。

そこで、この状況の中、市議会のあり方や地方議会としての改革・役割について調査研究し、市議会全体の機能向上と議会活動の活性化を図る目的とするものです。

5 地方創生の時代と地方議会改革について

地方創生は、人口急減・超高齢化という日本が直面する課題に対し、各地域がそれぞれの特徴を活かした自律的で持続的な社会を創生することが目的とされています。

意思決定機関としての議会がより困難な課題等を判断するためには、ある程度の議員数が必要であるとし、2008年(平成20年)から「議会力を向上させ、首長と切磋琢磨する議会」を目標とし、独自の政策、制度設計など斬新な取り組みを進め、議会本来の機能、あるいはそれ以上に優れた働きをするまでの改革に成功し、今では多くの自治体が全国から視察に訪れるなど、地方議会改革のモデルケースとして注目を集めています長野県飯綱町議会の事例が紹介されました。

6 研修参加者

議 長	中 根 光 男
副議長	古 橋 智 樹
議 員	藤 井 裕 一
議 員	矢 口 龍 一
議 員	小座野 定 信
議 員	佐 藤 文 雄
議 員	加 固 豊 治
議 員	田 谷 文 子
議 員	岡 崎 勉
議 員	川 村 成 二
議 員	来 栖 丈 治
議 員	設 楽 健 夫
議 員	宮 嶋 謙
議 員	櫻 井 繁 行



(研修の様子)

7 研修の様子



(本研修を進行する古橋副議長)

全体研修は、千代田庁舎防災センター2階研修室で行われ、古橋智樹副議長の進行で始まり、冒頭に、中根光男議長及び横瀬典生副市長が開会にあたって挨拶し、茨城大学人文学部教授馬渡剛氏を講師に迎え、資料やスライドに基づいて「地方創生の時代と地方議会改革」について講演を受け、最後に、質疑を行いました。



(研修の様子)

II 研修内容

1 地方創生の時代と地方議会改革

(1) 政務活動費問題

▶ 2012年の法改正の趣旨

政務活動費を使える範囲を、それぞれの条例で定めるとした大きな理由の一つとしては、その地域社会や地方の運営はそれぞれ住民の意思で決めるという地方自治の発展にあります。

現実的には一部地方議員による有権者の信頼を裏切る事例が生じ、政治活動費撤廃の議論もありました。

(2) 長野県飯綱町の議会改革

▶ 背景

第三セクターの飯綱リゾート開発の経営破綻が表面化し、損失補償していた飯綱町が金融機関に訴えられ、町は全面敗訴し、8億円の負債を抱えた。このようなことから、住民の怒りの矛先が、最終議決機関である議会に向けられ、飯綱町議会では6つのあるべき議会像を集約し、議会改革に取り組んだ。

- ・ 自由で活発な議論が展開される議会
- ・ 町長と切磋琢磨する議会
- ・ 住民の声を行政に反映する議会
- ・ 住民に開かれた議会
- ・ 政策提言のできる議会
- ・ 町の民主主義と住民自治発展の推進力となる議会



▶ 町民政策サポーター制度

町民政策サポーター制度とは、公募のほか、年齢や地域、職業や性別などを勘案して集まった一般住民が実際の政策立案の議論に参加し、議論に加わり、町の政策を協働で進めるものです。

議員のなり手不足に悩む地方議会が多い中、政策サポーター制度導入以前の飯綱町も例外ではなく、若手の立候補者はほとんどいなかったため、議員の平均年齢が高く、女性議員もわずか、選挙は無投票に近く、とても議員が町民を代表しているとは言えない状態でしたが、政策サポーター制度導入後は、このような偏りを補正することができたという。

このサポーター制度を通じて、2014年（平成26年）4月から時間外保育料の一部無料化が実現されました。これを実現するまでには、全議員が自主的な学習会と自由討議を



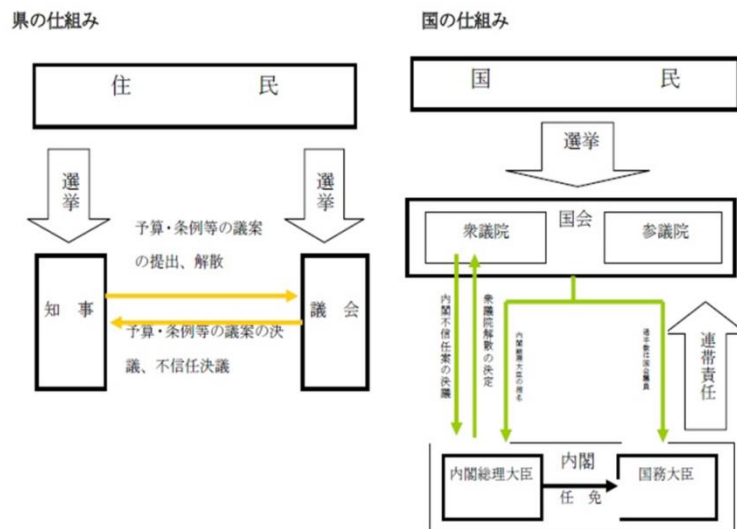
実施し、地方自治の先進事例を学びながら、さまざまな政策課題について積極的に議論し、論点を整理した上で、課題解決に向けて取り組んだ成果です。

議員たちは「議論する力」が磨かれ、町民の意見に耳を傾け、それに応じた的確な発言と判断ができる能力が備わったものといえます。

(3) 二元代表制

▶ 二元代表制の趣旨

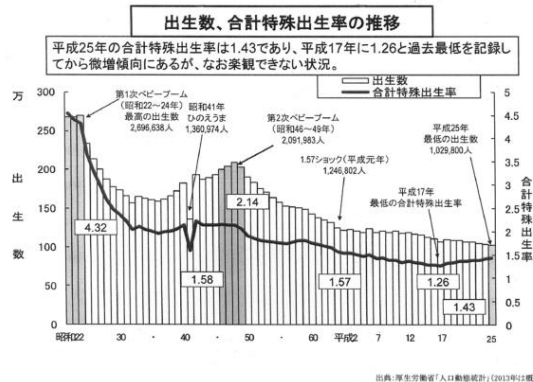
- ・ GHQが、当時の日本の地域に民主主義を徹底させるため導入。
- ・ 対立と競争、パンドラの箱。
- ・ 議会改革を原点回帰
- ・ 潜在的には最終決定権は議会。



(4) 地方創生

▶ 人口減の影響

- ・ 人口減少の低下 ⇒ 地方財政の減少 ⇒ 行政サービス水準の低下



▶ 小さな政府について

日本は世界でも自然災害多発国であり、あらかじめ全てをすることはできない。そのため、政治・行政だけではなく国民もまた「できること、起こりうること」と「できないこと、起こらないこと」を議論しておくことが必要。

(5) 地域の宝となりうる地方議員

- ・ 限られた地方議会の資源
- ・ 問われる政治的力量と政治家の責任
- ・ 地域に根差す行動原理を有する地方議員
- ・ その行動如何によって、地域の宝となり得るし、地域の課題そのものとなってしまいうという可能性もある。



(6) 地方創生時代の議会

- ・ 将来世代の中長期的な利益を見据えた判断が必要
- ・ 新たな負担の分かち合いなど、峻厳な決定を行わなければならない場面が増加
- ・ 政策的な専門性を高める必要（大学の利活用）
- ・ 住民の代表機関として、多様な層の幅広い住民から議員を選出する必要
- ・ 一度議員定数を減らしたら、増やすことが困難

2 事前質問

▶ 通年議会のメリット、デメリットについて

地方議会で、定例会の会期を1年として閉会期間をなくし、必要に応じて本会議・委員会を開けるようにする制度である。

メリットは、首長の招集でなく議長が招集し、災害などの緊急時に迅速な議会对応ができ、専決処分を少なくすることができる。

デメリットは、議会对応が多く、特に町・村議会では、議員のなり手不足が懸念されるが、県内では、常総市、守谷市が導入しており、その状況を参考に調査研究を進めるとよい。



▶ 夜間・休日議会の開催について

地方議会において議員のなり手不足が深刻な問題となっている。若い世代の議員や議会の傍聴者を増やす目的で、夜間議会や休日議会を実施することが今後の検討課題となっている。

長野県飯綱町議会では、議会改革の推進を行っており、夜間議会や休日議会を実施したことで、傍聴者が増加したという。

3 質疑応答



Q 高報酬にして議員専任とする方向性と議員定数を増やす方向性のどちらがよりよい議会となるのか。

A 住民とも話すことができ、なおかつ、専門性も話すことができる議員が必要であり、どちらかではなく両方できなくてはならない。

Q 2100年(80年後)の人口減について、どうなっているのか。

A 日本の総人口は、2004年(12,784万人、高齢化率19.6%)をピークに、2100年(4,771万人、高齢化率40.6%)には明治時代の水準人口に推計されている。



Q 島根県雲南市の人口減少対策については、どうなっているのか。

A CCRC (コンティニューイング・ケア・リタイアメント・コミュニティの略) 大都市の高齢者の地方移住を促進する取り組みを行っている。

Q 予算計上を議会が関わることができるのか。

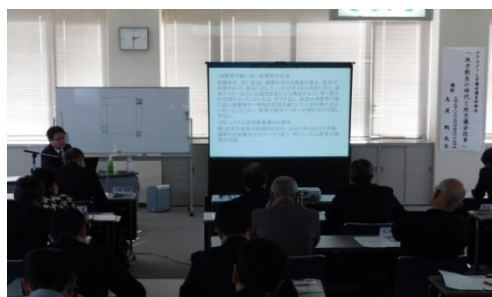
A 予算にももっと意見を取り入れることで、これまでやってきたことの評価として決算から始めることが、議会改革の一步となるかもしれない。



Q 議員定数削減や報酬削減等減らす風潮があるが、議員の定数のあり方はどうなのか。

A 平成の大合併で定数削減が急激に進んだと思われます。目的を明確化し、こういう理由が必要だという根拠で議論していくことが大切だと思われる。

▶ 全体研修の様子



III 感想等 ～ 研修を終えて ～

- ・ 特に教授が挙げられた具体的な事例はとてもわかりやすく非常に参考になりました。
- ・ 住民の声を行政にいかに関反映させ、住民に開かれた議会を確立するかが市の発展と市民との信頼の基本であることと日々の努力が重要であることを再認識しました。
- ・ 人口減少社会にあつて、地方創生の必要性が言われている状況にある中、二元代表制の一翼を担い、最終決定機関の地方議会は、どうあるべきか、どう改革すべきか考えさせられました。
これからの社会では、一人暮らし世帯や空家が増え、防災力が低下し、地域コミュニティが弱くなると思われますので、30～40年後のよりよい社会を目指して活動していきたいと思います。
- ・ 日本の危機的状況は、少子高齢化社会であり、いわゆる団塊の世代が高齢になるにつれ高齢化率が高くなり、ほとんどの自治体が人口減少に悩んでいることについて、その具体的な解決方法等を伺いたかった。
- ・ 「議員は、地域住民の代表」と言われている。私たち議員は住民の意見や声をしっかりと聴き取りすることが重要であり、また住民自らが意見や声を上げることができる環境づくりも大事であると思いました。
- ・ 少子高齢化に歯止めがかからなくなっている今日、若い女性が安心して子どもを産み、育てることができる社会を作っていけるよう考えていきたいと思いました。
- ・ 地域資源は、観光資源だけではなく、政治家自身も地域の宝となることを伺い、市議会議員としての心構えを再認識しました。
- ・ 政治には、情熱と判断力の両方が重要であり、常にアンテナを高くして、情報収集と的確な判断していくことを自覚しました。

